【ごんぎつね授業記録①】

「ごんぎつねはひとりぼっちの小ぎつね」

義昌朗読
T今日は、「ごん」っていったいどういうやつなんか、それを考えてみたいと思います。
　まず、ごんは、どんなところに住んでるのか。英ちゃん。
英和　シダのいっぱいしげったところ
T板書
　まだ、付け加えられる人
勇太　穴の中
C　穴をほって住んでた。
祐介　中山さまのおしろから少し離れた山の中
T場所をいうてるんやな。
　中山様のお城から少しですから、うんとじゃないんだね。
　彦根でもそうですが、お城の周りには町があり、村がある。そこからうんとじゃく少し離れた山の中。そのシダがいっぱいしげった中に穴をほって住んでる。
　それから、ごんについてまだわかること。寿子ちゃん。住んでること以外に、ごんってどんなやつ？
寿子　いたずらする。
勇太　ごんたぎつね
和寿　いたずら！
Tいたずらをする。はい、まいちゃん。
麻衣子　ひとりぼっち
T　今いわったの、２つ書くぞ。
　一つは、この穴の中にひとりぼっちですんどる。
　それから、こいつは、いたずらもんや。
義昌　夜でも昼でもいたずらしにいく。
T　大事なことやな。こいつは、たまにいくんじゃなくて、夜でも昼でもなんやな。
　夜でも昼でも気が向いたらいつでも。
太志　ねとらへんのか？
義昌　やりとうなったらいくいうことやろ
Tやりたいときは、いつでも。
　で、今日考えてもらいたいのは、一人勉強のとき、ほとんどの人が、「なんでごんは、こんなにいたずらばっかり、夜でも昼でもいたずらばっかりしよるのやろ。」
これを今日はみんなで考えてみたい。
祐介　さびしいから
T　もうすでに意見のある人があるね。じゃ、もういっぺん自分自分で読んで。一人ずつ

意見をもってください。
C読む

Tここにこう書いてますね。「夜でも昼でもあたりの村に……いろんなことをしました。
　まだまだ、ここにかいてない、いっぱいいたずらをした。何で、こんないたずらばっかりしよるんかなあ、ということについて、みんなの考えを聞かせてください。
賢児　いたずらがおもしろいで。
T　賢児は、いたずらがおもしろいで、という。ほれから、言うてる人があるね。
祐介　独りぼっちやからな、村の人に相手にしてもらいたいからな、
Tほう、何やて……
宏　近い！
T　一人ぼっちといたずらは関係がある？
安裕　うん。あると思うな。
C　ある
寿子　祐介君と同じで、いたずらしたらな、村の人とかも相手にしてもらえるからな。
　上手につきあいができひんの。
Tほう
宏　村の人に仲間にしてもらえへんの。
Tほう
祐介　あのな、書いてへんけどな、はじめはな、村の人といっしょにしてたんやけどな、ある日、ごんを（不明）でな、ごんがおこってしたと思う。
T書いてないでわからないけど、ごんは、ひとりぼっちで、何かすねとるような気がする。
賢児　お父さんがいいひんでな、いたずらして遊んでるの。
Tこれは、何やて、ごんにしてみたらだれもおらへんから、ごんのあそびなんや。
康治あんなゆうちゃんみたいにな
安裕　シダのいっぱいしげった穴の中に
　（同時に言い出したので）
T、ちょっと待って、安裕から言って
安裕　シダのいっぱいしげったところって、暗いやん。
C口々に言う
C村のところに住んだらいいやん。
Tちょっとまって、けちをつけるんじゃなくて、まず、安裕の言いたいことを聞こう。
　その後問題にしよう。今安裕が言ったこと分かった人。麻由ちゃん。
麻由　シダのいっぱいしげったところは、暗いさかいさびしがりや。
T　今のでわかった？えりちゃん付け足したって
恵理子　ごんは、お母さんがいないから
T　そうじゃなくって、今、安裕が言いたかったことは何？
　安裕は、こういったね。シダがいっぱいしげったるね。
義昌　その中で暗ーいきつねになっとうる。
T　みんな山の中に入ったことある？入り口くらいならいいいけど、奥へ入ったら、……

先生、毎年正月前に、シダを取りに山に行くんだけど、谷底のじめじめしたところに生えている。日がささへんうすぐらいところ。そんなところに一人でおるから、ほんで何？安裕、もういっぺん言って。
安裕　さびしいでほんでいたずらばっかりしてるの。
義昌　もう一個あった、きたないところにいるから嫌われる。
T　そんなところに一人でいるから、何かおもろいことないかな、て出ていくんや。
「ほんなんやったら、こんなところに住まんかったらええやん」と言ったね。
だれか、それについて。俊之の疑問について。
和寿　人に見つかったら殺される。
知美　人に見つかったら殺される。山の中やったら
太志　村の人に追われたでいったん。
C　好きでいるのとちがう。
T　お、和寿、わかるかい？
和寿　たぶん。好きでいるんやないけど、村の近くに住んでたら、すぐに見つかって殺されてしまう。
T村の人との関係は、いたずらしにいく関係やな。そんなところにすんどったら、
C殺される。
Tだから、安裕は
安裕　住みたくないけど、しかたがないで、住まなしゃあない。
Tだけど、こんなところに夜一人ねてもだれもしゃべらない。朝おきても薄暗い。そんなところを。
　では、みんなの疑問はそれでいい。
　ついでにこれも確かめておきましょう。何で「ごんぎつね。」という名前があるんだろう。
だれがつけたの
C村の人！
Cごんた
T村の人がなんでつけたの？
和寿　ごんたやから。
Cいたずらばっかり
T和寿
和寿　あんな、いたずらばっかりしてることをごんたっていう。
Tそうやな。そんな話したな。
勇太　ごんたぎつね。
和寿　ほんでな、「ごんぎつね。」
勇太　省略したん。
T　こうやってきよる。村の人から見たら、いつも悪さをしにきよるあのきつね、になるわけやな。ほかのいろんなやつがおるなかで、こいつばっかりきよるから、あのごんたのきつねめが、
太志　ごんたのきつねがなまって、

Tで、ごんぎつねになった。
　じゃ、もう一つ。これが大きい問題。
　みんな、ここにこう書いたるやろ。「ひとりぼっちの小ぎつね。」（板書）何て書いたる？
「ひとりぼっちのこぎつね」て書いたるな。　　「「小」
と書いたるな。「子」とは書いてないな。子供のきつねとは書いてない。小さいきつねと書いたる。
そこで、みんなは、このごんは、体は小さいということは、子供のきつねと考えるか、それとも、体は小さいけれど、一人前の大人に近いきつねと考えるか
勇太　小さい！
T子供のきつねと考えている人
Cはーい！（多数）
勇太　一人前やったらいたずらみたいしいひん
Tじゃ一人前のきつねやという人。
C数人挙手
勇太　なんで？
Cどっちともいえへん
Tこれから読んでいくのに大事なこと。これは、子供のきつねなのか、一人前のきつねなのか。
太志　このきつね、ようわからんで
T　これ、読むと書いてある。さあ、考えて
祐介　わし、と書いたる。
太志　わしとか、おれと同じ
Tまず、勇太から聞いてみよう。子供のきつねやいうんやね。
勇太　えっとな、一人前やったらな、いちいち村に出てな、夜でも昼でもいたずらしいひんと思う。子供やからな、やっていいことと悪いことがわからんの。
だからまだやってるの。
T勇太に付け加えて言える人。
賢児　大人やったらな、山でくりとかひろって、いたずらなんかしいひん。
Tふたりともがいってるのは、いたずらなんかするのは子供がすることや。大のおとながいたずらなんかするか、て。
宏　なんか、子供と思うんやけど、大人とも思える。
C　つぶやき
祐介　はい！
T祐介や宏は、なんか違う、いうとるぞ。
祐介　６０ページにな、「わしがいたずら」て書いたる。
Cロ々に反論。よっちゃんかて、「わい」ていうやんか。
T今、けちをつけるんじゃなくて、祐介が言いたいことを分かったろう。
　祐介、「わし」やさかい、何やて？
祐介　「わし」て書いたるしな、もうちょっといくとな、「おれと同じひとりぼっち」て書いたる

T祐介の言いたいことわかる?だれか付け足したって。
義昌　わかる！ゆうちゃんのいいたいこと。こういう言葉は、子供はつかわん。
Tほれほれ、「わし」っていう言葉はどういう人が使う？
Cじっちゃん
T先生、祐介に近い考えなんだけど、だれか祐介の言いたいことわかる？
C年寄り
Tまいちゃん
麻衣子　子供のきつねのようにも思うんやけど、何もわからへんかったら「ちょっ、あんないたずらしなけりゃよかった。」て書いたるやん。そこで自分の悪いというのがわかったからな、
T今、まいちゃんの言ったところ、みんなで見たってくれ。
　６０ページ。「ああうなぎが食べたい……ちょっ、あんないたずらしなけりゃよかった。」こんな考えかた、子供がするかなあて。
Cするで
智美　同じところでな、自分が大人気ないと思ってるん。
T「大人気ない」……だれか、付け足したって。
康治　違うことかもしれんけどな、「おじいさん。」
T　子供ではないということやな。
康治　かしこい。長い間生きてるでな、いっぱいこの村のこと知ってるからな、抜け道とか知ってるからな
T　今の康治の聞いてた？
宏　大人になりかけやから、いろいろ村のこと知ってる。
T村のこともよう知ってるってどこでわかる？
宏　あんな、５７ページで、太鼓や笛の音で考えてる
C　ああ、あれか。
宏　秋祭りか
T　「ふふん村に何かあるんだな。」「なんだろう秋祭りかな。」
康治もうひとつある。「葬式だ」てわかる。
祐介　５３ページで、「兵十だな」ていうところあるやん。ほれとな、家もしっとるやん。子供やったらまだわからん。
Tそういうふうに、ようしってるな、やっぱこいつ大人やでよ、いうところ、もっと見つかりませんか？
英和　６３ページの（不明）
T今のひでちゃんのだれかいえる人ない？
宏　ふつうやったらほっとくのにな、鰯を兵十にあげてる。
和寿　子供やったら、うなぎとかとっても、そんなこと関係ないからな何も考えへんし関係ないからな気にしいひん。
康治　鰯とか、家に入ったらすかさず
太志６３ページのな、「かわいそうに、兵十は、いわし屋にぶんなぐられて、あんな傷までつけられたのか。」て、子供やったら同情とかしいひんけど、大人やから。

義昌　もう一個ある。
　６９ページのな、どこやった……「その明くる日もごんは、……兵十は物置でなわをなっていました。」兵十がいるところをよう知っている。
安裕　はじめごんはうなぎをとって、あとから、くりやまったけをもつていって、お返ししてやるやん。ほこんとこでよ、子供やったらお返ししよらへん。ほやけど、ごんは大人やで、お返ししてるん。
宏「へえ、こいつはつまらないな。」のところで、子供やったらもうあげんとこうと思うのに、ごんは、その明くる日もくりをもって兵十のうちに出掛けた。
Ｔほう、すごいね。こんな複雑な気持ちはおとなでないと出てこない。
智美５５で、
Ｔじゃ、黒板見てくれる。
　今、勇太がいうように、やっている「いたずら」って子供がするようなことなんだけど、でも、いたずらしながら、ものを見たり、考えたりしているしぐさは、村の一部始終も知っている、だれがどうかということも知っている。こういうことは、ほんのこぎつねではできんことだろう。
もう一つは、後で出てくる、ごんが兵十を見てるね。兵十とごんは、何か、子供が大人を見ているような見方をしていませんね。「おれと同じ一人ぼっちの兵十か。」て、「ちょっあんないたずらしなけりゃよかった。」
いつも自分と対等、という言い方分かるかな。いつも自分と同じ者みたいな相手の仕方をしていますね。そう考えると、そんな子供のきつねじゃないって感じがしますね。体は小さいけれど、心の中は、かなりいっちょまえのきつねと考えてくれたほうがいいね